國學院大學學術情報リポジトリ

五井昌久の平和思想を支える理念：その形成と展開

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉田, 尚文, Yoshida, Naofumi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00002459

【表1】 五井昌久 [大正5 (1916) 年～昭和55 (1980) 年] 関連 略年表

年（和暦／西暦）	満年齢	「時期」	出来事〔※この略年表では、出来事の主語にあたる「五井は、」を、おおむね省略した〕
大正5／1916	0	「戦前期」	11月22日、東京・浅草で誕生。
大正6／1917	1		
大正7／1918	2		
大正8／1919	3		この頃から「生活」「生き方」などを考えていた、という。
大正9／1920	4		
大正10／1921	5		
大正11／1922	6		
大正12／1923	7		9月1日、関東大震災。父の郷里・新潟県で生活。寺が好きで裏山の寺によく行った。
大正13／1924	8		
大正14／1925	9		
大正15、 昭和元／1926	10		
昭和2／1927	11		
昭和3／1928	12		小学校の頃から俳句や短歌を詠む。作文、唱歌が得意だった。佐藤紅緑の小説に魅せられる。

昭和4／1929	13		高等小学校1年を終えて、織物問屋の店員となる。ヨガ式呼吸法を加味しような静座法を実践。
昭和5／1930	14		
昭和6／1931	15		
昭和7／1932	16		この頃から、暑中休暇には毎年のように越後の山腹にある寺の堂で静座を組んだ。
昭和8／1933	17		
昭和9／1934	18		この頃、独立して、五井商店を開業。正式に音楽の勉強を始めた。歌人や詩人たちと交流。
昭和10／1935	19		10代終わり頃から20代の初期に、「霊媒」の女性に2、3人出会った。
昭和11／1936	20		短歌会「ぬはり」社に入った。坐禅観法を実践、病弱を一変する効果があった。
昭和12／1937	21		
昭和13／1938	22		
昭和14／1939	23		聖書、大蔵経、武者小路実篤、トルストイなどを読んでいた。
昭和15／1940	24		9月、日立製作所の亀有工場に入社。文化活動の中で高村光太郎や竹内てるよ他の教えを受けた。
昭和16／1941	25		
昭和17／1942	26		この頃、詩誌『若い人』に参加したという。
昭和18／1943	27		
昭和19／1944	28		
昭和20／1945	29	「遍歴期」	岡田茂吉の著書を読み、共感。戦後まもなく、日立を退職。谷口雅春の本を読み、感銘を受ける。

昭和21／1946	30		岡田と面会。夏、葛飾の中川土手で「天声」をきく。生長の家「葛飾信徒会」結成。9月、中央労働学園に就職。
昭和22／1947	31		「心霊研究」に熱中する。
昭和23／1948	32		
昭和24／1949	33		千鳥会の会員となる。谷口と面会。6月、「神我一体」を体験、「覚者」になったとされる。
昭和25／1950	34		7月、美登里と結婚。
昭和26／1951	35	「草創期」	11月、「五井先生讃仰会」が発足。
昭和27／1952	36		この頃（昭和27、28年頃）、紅卍字会に関心を持ったという。
昭和28／1953	37		5月、『神と人間』発刊。この年以降に、五井昌久と安岡正篤との間に親交が生まれる。
昭和29／1954	38		この年、「世界平和の祈り」（の内容）を公表。1月、父、死去。11月、機関誌『白光』創刊。日本においても、アダムスキーらの「空飛ぶ円盤」にかんする書籍が刊行されはじめる。
昭和30／1955	39	「成立期」	五井先生讃仰会を宗教法人化。6月、『天と地をつなぐ者』発刊。7月から、機関誌『白光』に小説「阿難」の連載開始。
昭和31／1956	40		5月24日、東京・神田の区民会館で五井の法話会が初めて開催。機関誌『白光』6月号「巻頭言」で、五井が他の星の世界と人間・地球との関係について記述。6月、白光真行会、結成。10月、宗教法人白光真宏会設立〔宗教法人五井先生讃仰会から改称〕。
昭和32／1957	41		9月、母、死去。秋頃、「世界平和の祈り」のパンフレット発行、配布開始。10月、植芝盛平と初めて会う。
昭和33／1958	42		3月、英訳「世界平和の祈り」を機関誌に初めて掲載。春、東京・飯田橋での五井の法話会に植芝盛平が来る。8月、松雲閣で「統一会」始まる。「聖ヶ丘」の地、定まる。
昭和34／1959	43		10月、小田秀人が白光真宏会の道場に来訪。五井は紅卍字会に「入会」。
昭和35／1960	44		2月、東洋大学講堂での講話にて、五井は白光真宏会会員たちに紅卍字会への入会を勧めた。11月、エルベール教授が白光真宏会の本部道場に来訪、五井と対談。

昭和36／1961	45		7月、水上鉄次郎の英訳で、「（英語版）世界平和の祈り」のパンフレットが出来た。「祈りのリーフレット」配付、推進。
昭和37／1962	46	「展開期」	3月、救世主宣言、五聖者合体宣言。 4月から、機関誌『白光』に「老子講義」の連載を開始。 6月、「宇宙子科学」始まる。
昭和38／1963	47		「祈りのポスター」貼り付け活動、始まる。「祈りのリーフレット」英訳版、出来る。
昭和39／1964	48		江口榛一が白光真宏会に来訪、五井と面談、「地の塩の箱」運動と協力へ。5月、初めての講演会を目黒公会堂で開催。 ドイツ語版「世界平和の祈り」およびドイツ語版「祈りのリーフレット」、出来る。8月、聖ヶ丘大道場完成。
昭和40／1965	49		尚悦子を養女に迎える。「練成会（錬成会）」始まる。月刊紙『白光新聞』、発行。杉並公会堂で講演会。 「祈りのリーフレット」エスペラント版、フランス語版が出来た。白光真宏会の青年部メンバーによって「平和行進」。 10月、聖ヶ丘道場にて東京大学の笠原一男助教授と『フェイス』誌の企画で対談。宗教をテーマに約1時間半、対話した。
昭和41／1966	50		1月、文京公会堂で講演会。2月頃から、「五井会」が始まる。3月、統一実修会に塩谷信男も参加。 5月、杉並公会堂で講演会。11月23日、50歳祝賀祭。
昭和42／1967	51		御茶ノ水ホールや四谷東貨健保会館で「東京個人指導」をおこなう。 4月から機関誌『白光』に広告を掲載するようになる。4月、東京で、会員たちが「祈りの行進」を実施。 ビデオ『五井先生の横顔』、ビデオ『聖地聖ヶ丘』を作製。6月、聖ヶ丘道場で、全国会員大会、開催。 10月、地方支部（静岡・伊東支部）へ出講。
昭和43／1968	52		1月、『生きている念仏』刊行。2月、「世界平和音頭」が出来た。3月、昱修庵完成。4月、伊勢神宮、熱田神宮を参拝。 6月、富士山で「お浄め」を行う。6月、笹川良一が昱修庵にやって来て、五井の「お浄め」を体験。 6月、五井昌久は娘・昌美を連れて、当時体調を崩していた植芝盛平を見舞う。植芝は床をたち、道場で合気の演武を五井にみせた。 6月、文京公会堂で講演会、同講演会で映画『天と地をつなぐ者』を発表（初上映）。 月刊紙『白光新聞』を月刊紙『世界平和の祈り』に改題。8月、ニューヨークに支部誕生。 同年、白光真宏会は、「新宗連（新日本宗教団体連合会）」に加盟することを表明。12月、月刊『聖ヶ丘』創刊。
昭和44／1969	53		4月、「コメンダートル」の称号と勲章を贈られる。6月、受章を記念して文京公会堂で講演会。 6月、明治神宮を参拝、甘露寺受長宮司と歓談。6月～8月、青年部メンバーを中心に東京から広島へ「平和大行進」。 10月、文京公会堂で「祈りによる世界平和運動のつどい」。 11月、白光真宏会「青年部総会」に五井が出席。年末、「世界平和を祈る会」の呼称が「世界平和祈りの会」と改められた。 同年、五井は「新宗連」の理事に承認されたという。
昭和45／1970	54		3月、朝日生命ホールで講演会。春頃、各地で静養。4月～5月、昌美と共に初渡米。 5月、日本紅卍字会の理事に承諾された、という。6月、文京公会堂にて講演会を行う。 7月、美登里夫人と共に海外へ（アメリカとヨーロッパ）、旅先ではクエーカーとの交流なども。 10月、京都と名古屋で講演会。名古屋講演の後、伊勢神宮へ行き参拝、奈良・法隆寺も訪ねた。 10月、世界宗教者平和会議（於・京都）に出席。11月、東京にて「11・3 世界平和を祈る国民大行進デー」。 同年、白光真宏会は、「世界連邦建設同盟」に加入。

昭和46／1971	55		<p>5月、安岡正篤が白光真宏会・昱修庵を訪れ、五井と語らう。</p> <p>5月、「第3回世界連邦平和促進宗教者大会」の顧問に。同大会に白光真宏会から200名余りが参加。</p> <p>7月、甘露寺宮司の招待で明治神宮参拝、御苑の菖蒲を觀賞、甘露寺宮司と歓談。</p> <p>7月、機関誌に「人間と真実の生き方（教義）」と「世界平和の祈り」の英訳文を掲載。</p> <p>7月～8月、五井たちは、ハワイへ「英語研修」に行く。9月、「第1回聖ヶ丘みたままつり」執行。</p> <p>10月、安岡正篤が白光真宏会・昱修庵を来訪、長時間にわたり、五井と歓談。</p> <p>11月、聖ヶ丘道場で「第1回全国青年大会」が開催、五井も出席。</p>
昭和47／1972	56		<p>5月、熱田神宮文化殿講堂で、「名古屋講演会」開催。5月、伊勢神宮（外宮、内宮）を参拝。</p> <p>6月、明治神宮・甘露寺宮司の招待で、明治神宮を正式参拝。参拝後、御苑の菖蒲を觀賞。</p> <p>7月、「富士大神業〔昌美らが富士登山、地球の業を浄めるといふ〕」を支援する。</p> <p>8月、白光真宏会会員たちが「広島平和行進」。</p> <p>8月、渡米しロサンゼルス、ニューヨーク、ハノーバー等に赴く。昌美はこの後、1年間、ミシガン州立大学で英語留学。</p> <p>9月、聖ヶ丘道場の増築工事が完了。11月、本部の事務業務が新田道場から聖ヶ丘道場へ移転。</p> <p>11月、日比谷公会堂で、講演会。講演会閉幕後、有志が「平和行進」。</p>
昭和48／1973	57	「闘病期」	<p>3月、昱修庵に籠もる。五井の「個人指導」は廃止に。</p> <p>3月、初代理事長・横関実が代わって、瀬木庸介が第二代理事長となる。</p> <p>4月より、白光真宏会の取り組みとして、「光のプレゼント運動（白光誌贈呈運動）」が始まる。</p> <p>8月、第15回世界連邦世界大会（ベルギー）に、五井の名代として斎藤秀雄が参加。</p> <p>10月、昌美がアメリカ留学から帰国、五井夫妻らが出迎え。7月と11月に、日比谷公会堂で講演会。</p>
昭和49／1974	58		<p>1月、五井たちは、伊勢神宮内宮を参拝、「お浄め」をおこなう。</p> <p>4月、五井は、「日本を守る会」の「百人委員」になっているとされる。</p> <p>5月、明治神宮会館で講演会。これが最後の講演会に。講演会の後、会員たちによって「平和行進」。</p> <p>7月、五井夫妻、銀婚式。9月、新東京道場の開所式へ。</p> <p>10月、娘の昌美が西園寺裕夫と結婚。</p>
昭和50／1975	59		<p>1月、白光真宏会の取り組みとして、「祈りのリーフレット」配付運動、復活。</p> <p>5月、五井の俳句が機関誌に初めて掲載。7月、「結婚を祝う日」を執行。</p> <p>8月、五井に初孫〔西園寺夫妻の長女〕、誕生。五井が「真妃」と命名。</p> <p>11月、五井の「誕生祝賀会」に、五井昌久は体調が悪く、欠席。祝賀会では、五井のメッセージを妻・美登里が代読。</p>
昭和51／1976	60		<p>1月、白光真宏会の活動方針として、「世界平和祈願塔（柱、碑）」建設、「平和ポスター（シール）」貼附が提案される。そして、「ピースポール」建立運動が始まる。</p> <p>4月、五井たちは、特別仕立てのバスを使って、伊勢神宮内宮へ行き、御垣内参拝。</p> <p>8月、白光真宏会が「祈りのポスター貼付活動」を推進、会員でも会員でなくてもこの活動に参加出来るという。</p> <p>8月、東京と大阪で、白光真宏会による「平和行進」。</p> <p>11月、五井の「還暦祝賀統一会」を行う。11月、東京、兵庫、岡山で「平和行進」。</p> <p>12月、五井に2人めの孫〔西園寺夫妻の次女〕、誕生。五井が「里香」と命名。</p>
昭和52／1977	61		<p>4月、白光真宏会東京道場内伝道局「光のベルト日本縦断」実行委員会が、4月～11月の祈りのポスター貼付運動を提起。</p> <p>4月に東京・神奈川で「平和行進」、5月に大阪で「平和行進」。7月、五井昌久の還暦を祝って詩集『純白』を発行。</p> <p>11月、東京と名古屋で「平和行進」。</p>

昭和53／1978	62	<p>1月、「聖ヶ丘発祥20周年記念祝賀統一会」開催。この日、「次は富士大道場の建設である」との宣言がなされた。</p> <p>5月、白光真宏会・瀬木理事長から富士道場建設のための募金事業について、機関誌上で告知。</p> <p>8月、『神と人間』の英訳版を刊行。8月、東京・京都・名古屋など全国各地で「平和行進」。</p> <p>10月～11月、長野・奈良・東京・神戸・名古屋・横浜で「平和行進」。</p>
昭和54／1979	63	<p>2月、英文雑誌『HEYWA へいわ』（季刊）第1号を発行。</p> <p>4月～5月、東京・群馬・広島で「平和行進」。</p> <p>7月、西園寺夫妻が北海道稚内市に「平和祈願柱」を寄付。</p> <p>7月、五井は、「日本宗教代表者会議〔JCRR〕」より、顧問に推挙された。</p> <p>8月、ロサンゼルスにて、全米で初の「平和行進」。8月、東京、京都ほか全国各地で「平和行進」。</p> <p>9月、熊本で「平和行進」。10月、「普及用パンフレット」の中に、ドイツ語版パンフレットが加わる。</p>
昭和55／1980	64	<p>1月、五井は機関誌に詩「富士山」を書く。富士山を「世界平和を築きあげる中心の地」と述べた。</p> <p>2月、聖ヶ丘道場で「法人設立25周年記念祝賀会（宗教法人設立25周年祝賀統一会）」を行う。</p> <p>2月、五井に3人めの孫〔西園寺夫妻の三女〕、誕生、五井が「由佳」と命名。</p> <p>4月20日、五井昌久は「統一会」でのお浄めを、娘の昌美に初めてまかせた。</p> <p>4月、東京で会員たちが「平和行進」。5月、『神と人間』のドイツ語版が出来た。</p> <p>5月、「白光合気道道場開き祝賀会」が行われた。6月頃、おもいきって久々に昱修庵の庭に出た。</p> <p>6月、和歌山で「平和行進」。7月、『五井昌久全集』の第1巻「講演編」、発刊。8月3日、東京で「平和行進」。</p> <p>7月頃、医師からもらった薬を飲んだが、嘔吐。8月7日、「私はもう薬は飲まない。お医者さんにもかからない」と語った。</p> <p>8月、機関誌に「各国語「世界人類が平和でありますように、」（6カ国語）、掲載。</p> <p>8月10日、「統一会」に登壇、「お浄め」を行った。8月17日、午前8時15分死去。</p>

【参考文献】

この略年表は、一般社団法人五井昌久研究会サイトの「五井昌久師生涯年表」（<http://goisensei.com/study/index.shtml> 2018年9月6日最終閲覧）、五井昌久『天と地をつなぐ者』五井先生讃仰会、1955年（非売品）、機関誌『白光』バックナンバー、等を参照し、筆者が作成した。